

武蔵工業大学後援会誌

# Mi-GOM

No. 19

1999-1



秋晴れのMI-TECH祭 テーマは「覚醒」(めざめ)  
空き缶を利用したプレート作りに子供たちは真剣そのもの  
その目はリサイクルにめざめています。



# 武蔵工業大学の活性化に向けて



学長 堀川 清司

本年9月1日付で武蔵工業大学学長に就任し、後援会顧問を委嘱されました。よってここ以後援会の皆様方への御挨拶と私の抱負の一端を述べます。

本学の淵源は昭和4年に創設された武蔵高等工科学校にあります。従って明年70周年を迎え、戦後武蔵工業大学に昇格しましてからも50周年になります。この間4万人にも及ぶ人材を世に送り出し、これらの方々が技術者として多方面で活躍してこられたことは、私共の大きな喜びであり、また誇りでもあります。

上記のように長い伝統をもつ本学は、平成9年度に横浜キャンパスに環境情報学部を開設し、また工学部を改組して新たに3学科を増設しました。このように本学は新たな展開を遂げています。

平成4年をピークに、18歳人口は急速に減少する、いわゆる少子化の時代にあり、加えて経済環境は極めて厳しい状況にあります。これらは教育界にも大きな影響を及ぼしていま

す。従って、文部省大学設置・学校法人審議会に出席して、各大学が懸命に改革を続けていることをひしひしと感じます。

わが武蔵工業大学においても現在将来構想委員会を設置して熱心に討議をしております。そこでは、学部及び大学院の教育の在り方、学生のキャンパスライフの充実等、多面的な視点から検討を行っております。そこで、私は良好なキャンパス環境を形成するために中長期総合プランの作成が急務と考えています。そのプランに基づいて、順次建物の整備を進めたいと思いますが、このためには多額の資金を必要とし、また相当の期間をかけて実施する必要があります。

本学の知名度を一層高め、優位の就職条件を維持していくためには、優れた教員が本学に存在していることを世にアピールし、研究活動等を一層活発化させねばなりません。その方策として文部省科学研究費補助金の獲得は勿論、共同研究や受託研究の拡大など外部資金を積極的に導入する必要があり、その促進のための仕組みを作りたいと考えています。後援会におかれましては、上記の大学側の努力に対して、温かい御理解と御支援をお願いする次第です。



平成10年度  
東京地区

# 「父母との連絡会」 密着取材レポート



▲全体説明会々場(世田谷キャンパス)

ご父母の皆様方に、武蔵工業大学の現状とこれからを把握していただく絶好の機会である「父母との連絡会」。今年も7月12日の沖縄県那覇市を皮切りに全国28地区で行われ、9月26日に世田谷キャンパス(工学部)と横浜キャンパス(環境情報学部)で開催された東京地区の父母との連絡会で幕を閉じました。東京地区では「学内見学」という特別プログラムも用意されているためか、どちらのキャンパスともたいへん多くのご父母が参加。ここではその模様をレポートします。



▲堀川学長



▲堺工学部長



▲黒崎後援会長



▲曾祢就職連絡協議会議長

## 今年も大盛況。たくさんのご父母が参加!

東京地区「父母との連絡会」に参加されたのは、東京、神奈川、千葉、埼玉のご父母を中心に、世田谷キャンパスは559名、横浜キャンパスは70名。昨年同様、ご父母の方々はそれぞれのお子さまが通うキャンパスで参加する形となりました。

それではまず世田谷キャンパスの模様からレポートしていきましょう。

世田谷キャンパスでは、最初に学内見学がスタート。これは一組30人ほどのグループで、職員の引率のもと武蔵工大内のさまざまな施設を見て回るというもの、毎年大好評をいただいているプログラムです。グループによって若干異なりますが、主な見学施設を上げると「水素エネルギー研究センター」「残響室・無響室」「半導体特別研究室」「情報処理センター」「自動制御研究室」「構造実験棟」「機械基礎実験室」「機器分析室」など。施設の説明を大学院生が担当するところも多く、慣れない大役を任されて汗をかき

かき奮闘する彼らが、見学会を和やかな雰囲気にしていました。

各施設を一回りしたら「学食」で昼食タイム。今回のメニューは学生にも人気の高い中華丼です。とくにお母さま方は、味とボリューム、そして栄養のバランスを厳しくチェックしていたようですが、皆さんの満足そうな顔を拝見した限り、どうやらまずまずの点数をいただいた様子。なお、この昼食タイムを使って体育館では吹奏楽団によるジャズ・コンサートも開かれ、食事を終えた方々の耳を楽しませていました。

午後1時からはいよいよ全体説明会の開始。学長、工学部長の挨拶、続いて後援会長から後援会の活動内容と、就職連絡協議会議長から卒業生たちの就職状況についての説明がありました。とりわけ印象的だったのが、堀川清司新学長の挨拶中の「厳しい社会状況下、学生一人一人が何を学び、何を身につけているかが一層問われています。かつてのように大学生活を人生の息抜きの期間と捉えることはもはや許されていません」という言葉。その他、武蔵工大の教育指導の方針、昨年より2学部体制となったことによるメリ



ットと今後の展望などについてもわかりやすく語られ、熱心にメモをとられる父母の姿も目立ちました。

この説明会の後は各学科・学年別の懇談会の時間となり、その後、希望者には個人面談も実施されました。

## 新設「エコ・キャンパス」の雰囲気を満喫

一方の横浜キャンパスのプログラムでは、最初に学長、環境情報学部長、後援会長、教務委員長による全体説明会からスタート。文・理系の枠組みを越えた新しいスタイルの学部である環境情報学部を設立した意義、教育指導の内容、学生たちの可能性および将来の就職への展望などをテーマにした話が各講演者から語られました。

説明会の後はキャンパス内の自由見学です。横浜キャンパスは最新の情報処理機器を多数揃える情報

メディアセンターをはじめ、教育の最先端に行く施設を多数設置。それでいながら人工環境のみに頼らず、自然との共生をテーマとした、まさに21世紀型エコ・キャンパスの雰囲気に満ちています。この快適な環境の下で学生たちが勉学に励んでいる姿を、ご父母の皆さんはきっとリアルにイメージすることができたでしょう。

昼食は世田谷キャンパス同様、学生食堂で。その後はクラス別の懇談会となり、担任教員からより具体的な教育指導内容の説明が行われ、横浜キャンパスのすべてプログラムは終了しました。

こうして平成10年度の東京地区「父母との連絡会」は無事に幕を閉じました。学生が毎日を通ぐすキャンパスの空気に触れつつ、武蔵工大について理解を深める一日……。残念ながら今年参加することができなかったご父母の方は、ぜひ来年こそ参加されることをおすすめいたします。

## 「父母の連絡会」の1日



▲受付開始前よりたくさんのご父母が！  
(横浜)



▲メディアホール(横浜)



▲楽しい昼食タイム



▲工学部自慢の水素自動車(世田谷)



▲掲示板。「息子の名前は？」(横浜)



▲カレーライス(横浜)

▲中華丼(世田谷)



▲新設されたオープン・カフェ(世田谷)



▲機器分析室(世田谷)



▲300人教室での全体説明会(横浜)



## 参加されたご父母の コメント



世田谷  
キャンパス 電子通信工学科1年  
田野井淳一くんのお母様

大学には、こういう機会がないとなかなか来れませんから、いい経験になりました。気になったのは教室の机。ちょっと小さいのでは。身体の大きい大学生が、90分間もそこで講義を聞いていると思うと、少しかわいそう……。



世田谷  
キャンパス 建築学科1年  
山本健介くんのお母さん

学内見学のルートが機械工学科の施設中心でしたから、息子に関係する研究室なども回りたかったです。施設では、最近できたというオープン・カフェの雰囲気がいいですね。いかに気持ち良く昼食が楽しめそうです。



世田谷  
キャンパス 機械工学科3年  
今西辰典くんのお母様

情報処理センターを見学しましたが、情報機器の充実ぶりには驚きました。最近では技術の進歩が早く、パソコンなどはすぐ古くなってしまいますから、最新機器を常に揃え続けるというのはたいへんでしょう。



世田谷  
キャンパス 電子通信工学科1年  
水越啓一くんのご両親

今日は息子と一緒に電車に乗ってきました。通学中の車内や学校の周りの様子も含めて、どういう環境の中にいつも息子がいるのかがわかってよかったです。落ち着いた雰囲気のキャンパスには安心しました。



世田谷  
キャンパス 土木工学科1年  
津止健二くんのお母様

このような機会を設けている大学は、けっこう稀なのでは？ 非常にいい試みだと思います。親として子どもがどのような環境で毎日過ごしているか、関心がありますからね。閑静なロケーションが気に入りました。



世田谷  
キャンパス 電気電子工学科4年  
渡辺丈太郎くんのお母さん

息子がもう4年なので、何回かこの会に参加していますが、毎回、学内見学のコースが違うので、いつも新しい発見があります。他の大学に比べて勉強がハード、とのことですが、その苦労が息子を大きく成長させていると思っています。



横浜  
キャンパス 環境情報学科1年  
地代所崇さんのお母様とご両親

閑静な場所で、環境的には最高。情報メディアセンターのコンピュータは最新の機種が十二分に揃えられ、お金がかかっているなあという印象を受けました。学食で昼食をいただきましたが、年寄りには味が少し濃かったなあ（笑）。



横浜  
キャンパス 環境情報学科1年  
境大輔くんのお母さん

新しいキャンパスならではのすがすがしい雰囲気がしますね。工学部のほうは歴史がありますが、こちらの学部は未来に向けて学生と先生方とでキャンパスを作っていくということなので、大いに期待しています。



横浜  
キャンパス 環境情報学科2年  
阿部貴久さんのお父さん

空間を上手に使って設計されていますね。新設されたばかりで学生が少ないためか、いかにも少数精鋭の教育機関という印象を受けました。息子の大学では、学内見学の機会がないので、今回は非常にいい経験ができました。



横浜  
キャンパス 環境情報学科1年  
鈴木寛くんのお母さん

横浜市営地下鉄沿線に住んでいますので、学校へは一本で来られます。通いやすいですね。コンピュータも豊富で、息子が十分に使いこなしてくれたらと思います。



横浜  
キャンパス 環境情報学科2年  
斎藤洋一くんのご両親

すばらしい一言。建物の外観も美しいし、また周辺環境に配慮されたキャンパスということもよくわかりました。昨年の横浜祭にも来たのですが、学生が明るく、姿にはみ出ている人がいないようで、好感がもてます。



# 平成10年度の就職動向

就職協定の廃止2年目となった今年度の就職戦線。本学学生の就職活動も昨年と同様に大きな混乱もなく終盤となりました。

企業の採用活動の動向を見ると早期化・長期化し、セミナーの開催や採用選考の日程も前年より若干の前倒し傾向となりました。

長引く景気の低迷(消費経済低迷、国内金融不安、企業の業績悪化等)により、雇用環境は前年より悪化しました。それにより、採用枠の減少による厳選採用の傾向が強まり、2年前の「超氷河期」というフレーズが再び使われた程でした。このような状況にあっても、本学の学生の就職活動は比較的順調に推移し、11月1日現在の就職希望者における内定率は、工学部92.1%(前年94.1%)、

大学院94.9%(前年94.7%)となっております。また、求人数を前年度と比較してみると、工学部4.3%増、大学院29%増で大学院生の求人数が大きく増加しています。

今後の見通しとしては、依然厳しく明るい要素はありません。景気回復への基盤は整備されつつあるものの、当面は厳しい情勢が続くそうです。企業の採用意欲は抑制基調であり「採用予定数の確保より学生の質を優先する」といった厳選採用がさらに強まると思われます。したがって、次年度の就職活動に際しては、早い時期にしっかりした就職観を描き、基礎・専門知識の習得は勿論のこと、「明るさ」「コミュニケーション能力の向上」等、十分な準備と積極的な取組みが肝要です。

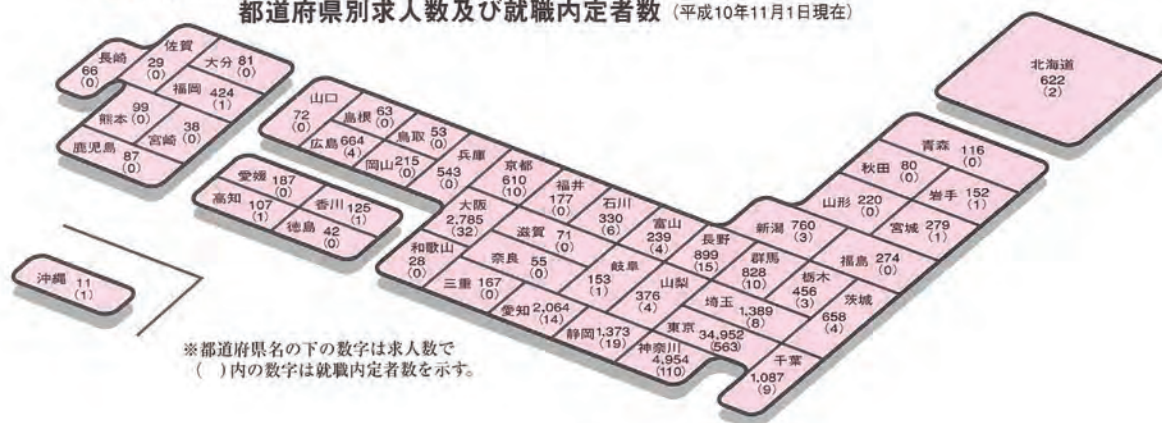
## ■平成10年度求人就職内定状況

(平成10年11月1日現在)

	項目 学科・専攻	就職 希望者	内定者	内定率 (%)	求人 企業数	1人当りの 企業数	求人数	1人当りの 求人数	進学希望	進学者
工学部	機械工学科	194	175	90.2	3,024	15.6	7,763	40.0	70	58
	電気電子工学科	94	94	100.0	3,161	33.6	8,020	85.3	79	72
	電子通信工学科	121	120	99.2	2,643	21.8	7,054	58.3	30	27
	建築学科	90	76	84.4	2,247	25.0	6,256	69.5	49	42
	土木工学科	97	82	84.5	2,295	23.7	6,285	64.8	28	19
	経営工学科	121	113	93.4	2,188	18.1	6,131	50.7	26	21
	小計	717	660	92.1	15,558	21.7	41,509	57.9	282	239
大学院工学研究科	機械工学専攻	39	38	97.4	1,147	29.4	2,928	75.1	2	0
	生産機械工学専攻	31	31	100.0	1,048	33.8	2,764	89.2	0	0
	電気工学専攻	81	81	100.0	1,258	15.5	3,151	38.9	0	0
	建築学専攻	32	24	75.0	785	24.5	2,234	69.8	1	1
	土木工学専攻	26	24	92.3	776	29.8	2,193	84.3	1	1
	経営工学専攻	18	17	94.4	822	45.7	2,290	127.2	0	0
	原子力工学専攻	7	7	100.0	674	96.3	1,988	284.0	0	0
	小計	234	222	94.9	6,510	27.8	17,548	75.0	4	2
	合計	951	882	92.7	22,068	23.2	59,057	62.1	286	241

## ■平成10年度卒業見込者に対する

都道府県別求人数及び就職内定者数 (平成10年11月1日現在)





## ■平成10年度就職内定先企業／資本金順上位50社

企業名	就職人数
日本電信電話(株) ……9	三菱マテリアル(株) ……2
東京電力(株) ……4	大成建設(株) ……5
(株)住友銀行 ……1	松下電工(株) ……1
ソニー(株) ……3	旭硝子(株) ……1
(株)日立製作所 ……7	本田技研工業(株) ……4
(株)東芝 ……1	ローム(株) ……2
三菱重工業(株) ……5	信越化学工業(株) ……1
富士通(株) ……3	(株)熊谷組 ……2
シャープ(株) ……2	(株)リコー ……2
日産自動車(株) ……5	富士重工業(株) ……2
松下電器産業(株) ……3	清水建設(株) ……3
東日本旅客鉄道(株) ……4	全日本空輸(株) ……1
日本電気(株) ……6	日本通運(株) ……2
積水ハウス(株) ……1	(株)大京 ……1
三菱電機(株) ……2	日本移動通信(株) ……1
三洋電機(株) ……2	沖電気工業(株) ……4
キャノン(株) ……8	(株)NTTデータ ……3
三菱自動車工業(株) ……1	キャノン販売(株) ……1
マツダ(株) ……1	セコム(株) ……2
大日本印刷(株) ……3	石川島播磨重工業(株) ……2
(株)デンソー ……1	オムロン(株) ……2
大和ハウス工業(株) ……2	スズキ(株) ……2
昭和電工(株) ……1	鹿島建設(株) ……4
凸版印刷(株) ……2	ミネベア(株) ……6
京セラ(株) ……2	(株)村田製作所 ……1

## ■全上場企業の役員・管理職出身大学別ランキング (データ:『週刊ダイヤモンド』/全国大学一覧・文部省監修・昭和60年度)

大学名	区分	大学規模	平成8年			
		昭和60年5月現在 (※1)	B 人数	順位 (※3)	B/A 輩出指数 (※2)	指数 順位
		A学則定員				
早稲田大学	私立	8,560	11,332	1	1.32	9
慶応義塾大学	私立	4,940	10,908	2	2.21	4
東京大学	国立	3,063	8,575	3	2.80	2
京都大学	国立	2,536	5,739	4	2.26	3
日本大学	私立	13,700	5,696	5	0.42	
東京工業大学	国立	836	1,692	21	2.02	5
名古屋工業大学	国立	1,040	1,056	27	1.02	
東京理科大学	私立	2,890	1,031	28	0.36	
芝浦工業大学	私立	910	1,025	29	1.13	
武蔵工業大学	私立	790	957	33	1.21	11
大阪工業大学	私立	1,560	916	34	0.59	
工学院大学	私立	1,070	795	39	0.74	
東京電機大学	私立	1,400	747	40	0.53	
千葉工業大学	私立	1,020	662	49	0.65	
電気通信大学	国立	620	268	56	0.43	

※1.大学規模は臨時定員増の影響の少ない60年度とする。

※2.「輩出指数」=B人数÷A学則定員。

※3.順位は『週刊ダイヤモンド』の順位。

## ■就職・進学活動スケジュール

学年 進路先	1・2年生 (就職か進学かを考える)	3年生 (進路についてより具体的に考える)	4年生 (就職・進学活動の本番です。)
公務員等	<b>4～6月</b> ○公務員受験模擬試験など <b>12月</b> ○公務員受験講座など <b>12～3月</b> ○公務員受験模擬試験	<b>4～6月</b> ○公務員受験模擬試験など <b>11月</b> ○公務員ガイダンス <b>12月</b> ○公務員受験講座 <b>12～3月</b> ○公務員受験模擬試験	<b>4月</b> ○公務員ガイダンス <b>4～6月</b> ○公務員受験模擬試験 ○試験開始
民間企業	自己の適性に基づいて家庭で協議	<b>10～11月</b> ○就職ガイダンス(第1回) ○Uターンガイダンス(第1回) ○就職講演会(第1・2回) <b>11～12月 及び3月</b> ○就職適性・情報処理適正検査 ○一般常識模擬テスト ○能力適性検査・論文講座 ○自己分析 <b>1～3月</b> ○資料による企業研究 ○模擬面接 <b>2月</b> ○就職ガイダンス(第2回) ○就職講演会(第3回)	<b>4～5月</b> ○就職ガイダンス(第3回) ○Uターンガイダンス(第2回) ○模擬面接 ○学内での希望調査および推薦者決定 <b>10月上旬</b> ○採用内定通知 ○学内での採用内定報告手続
本学大学院進学		<b>4月</b> ○進学予定者対象の進学説明会 ○図書館などで大学院の専攻内容や入試問題等を検討	<b>4月</b> ○進学予定者対象の進学説明会 <b>5月</b> ○推薦入学生募集要項入手・願書提出 <b>6月</b> ○推薦入学試験 <b>8月</b> ○学生募集要項入手・願書提出 <b>9月</b> ○第1次入学試験 <b>2月</b> ○第2次入学試験
他大学大学院 (海外留学)		○他大学または留学先より資料を取り寄せ情報収集活動	<b>4月</b> ○指導教授と相談の上、進学先の検討 ○入学試験(大学の要項)



# キャンパスSPOT ⑤

環境情報学部のある横浜キャンパスの“核”とも言える存在が、この情報メディアセンターです。21世紀の社会を担う人材にとって情報の収集と処理、さらに世界に向けて発信する能力は必要不可欠。こうした時代が要請する能力を培うために、情報メディアセンターは設置されました。最新情報処理機器を備えた「各種情報処理演習室」「LL教室」、そして「図書館」。この3つの要素で構成され、センターを中心にして張りめぐらされたコンピュータ網（YC-NET）や映像網（YC-CAT）は、キャンパス外にも及んでいます。



シンセサイザーを使って音楽編集にトライしていたゴ・ラン・アインさん（環境情報学科2年）。彼女はベトナムからの留学生です。



戸塚理恵さん（環境情報学科1年）は、ただいまインターネットのホームページを作成中。「授業の課題なんです。楽しいですよ」

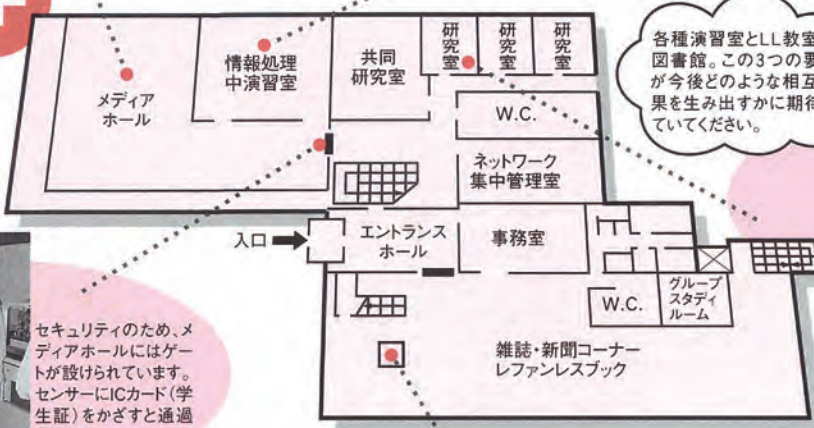


英語の宿題をパソコンで作成していた羽生田章裕くん（環境情報学科2年）。「この頃キーボードに慣れ、手書きより早いんですよ」



パソコンについて学生からの質問に答えるISA（INFORMATION STUDY ASSISTANT）として活躍中の武藤健くん（環境情報学科2年）。みんなから頼りにされています！

1F



各種演習室とLL教室と図書館。この3つの要素が今後どのような相互効果を生み出すかに期待していきましょう。



情報メディアセンター所長の山田豊通教授



セキュリティのため、メディアホールにはゲートが設けられています。センサーにICカード（学生証）をかざすと通過できます。



ICカードは、非接触式なので、バックに入れたままでも反応するんです。



図書自動貸出・返却機 図書の貸出・返却は、簡単な操作で行なうことができ、非常にスムーズなものです。



図書館の机を使って自習をしていた津田賀央くん（環境情報学科2年）。「きれいな空間だから、気持ち良く勉強できます。今後はもう少し一般図書を増やして欲しいな」





パソコンをはじめとする情報機器や、インターネットなどのマルチメディアを駆使して効果的な英語授業を行っています。講師は吉田国子先生。



データ処理法の課題に取り組んでいた中山恒二郎くん(環境情報学科2年)。「人気のある授業なんだけど、超難しいんです。トホホ」



室内の各テーブルに「情報コンセント」を設置。持参したノートパソコンを接続すれば、YC-NETを手軽に利用できます。

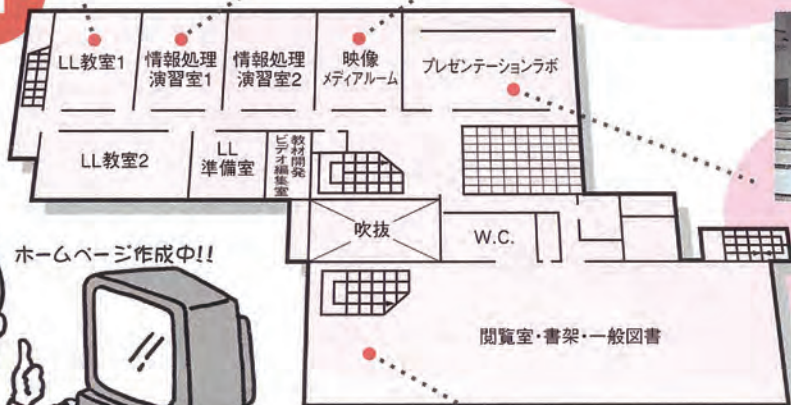


映像受配信のコントロールシステム、スタジオ、ノンリニア映像編集機器を備え、学内向けの映像を撮影、編集、配信できます。

いつも手軽にパソコンが活用できます。



2F



ホームページ作成中!!



横浜キャンパスのホームページは環境情報学部の学生が作成しました。



CATV、衛星放送、CD-ROM、インターネットなどを使ったプレゼンテーションが可能です。(全130席)

ずらりと並んだAV資料は、併設されたAVブースで鑑賞できます。「教養関連のソフトばかりというところが、ちょっぴりうれしい」と、学生の意見も…。



1F

「メディアホール」は、YC-NETに接続したマルチメディア対応のさまざまな最新情報機器に自由にふれられる空間。いつも学生でいっぱい。「情報処理中演習室」は、60台のパソコンを設置して演習授業を行える教室。ここも授業のないときは自由に利用可能です。図書館の1階は総合書誌、事典、辞典、白書、年鑑、年報などの参考図書、学術雑誌、国内外の新聞、一般雑誌などを配架しています。もちろんこれらの図書資料はすべてデータベース化されています。

2F

センター2階は各種「LL教室」と「情報処理演習室」が並んでいます。前者では視聴覚設備やパソコンなどを使って多角的な語学教育を、後者ではマルチメディアを利用した演習授業や、より高度な情報処理教育を行っています。「プレゼンテーションラボ」は、マルチメディアを駆使して、講義はもちろん、講演会、学生の発表会などを実施できるスペース。さらに図書館部分には、総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、技術・工学、産業芸術、言語、文学、各種文庫といった分野の書籍が揃い、ビデオなどの映像資料が鑑賞できるAVブースもあります。



# クラブ活動紹介-16

今回紹介するのは、日頃培っている工学分野の知識と技術を総動員して、さまざまなモノ作りに挑戦を続けている「機親会」と、今年初めて自分たちの力だけで横浜キャンパスの学園祭を成功させた「Y.F.A.(YOKOHAMA FESTIVAL ASSOCIATION)」です。いずれも、バイタリティにあふれる学生たちが揃った団体でした。

## 【機親会】

## エンジニア魂が燃える！ 武蔵工大が誇る技術者集団



顧問：杉山 好弘 教授  
会長：千原 健史 (機械工学科3年)  
会員数：35名 (内女子2名)

### “エコラン”に出場したい仲間たちで創立！ 学科研究会でありながら、クラブ顔負けの活動



▲短期集中、やるときはヤル安濃君 (機械3年)

機親会は、ある意味、いけばん世田谷キャンパスらしい活動を続けている学生集団と言えるかもしれません。現在の活動には「エコラン班」「エコノムープ班」「ソーラー班」「ロボット班」という4つの部門があり、いずれも工学分野の知識と技術、そして何よりも、モノ作りにかける情熱が必要不可欠。つまり、工学系の学生たちが可能性を試す場として、これ以上最適な場所はないのです。

ちなみに機親会は、“学科研究会”というカテゴリーに所属しています。学科研究会とは、文化団体連合会や体育会、また同好会などとは違い、基本的に各学科の学生により構成され (機親会の場合は機械系学科の学生)、それぞれの教員の指導のもと、専門分野について独自の研究活動を行う



▲メカのこならボクにおまかせ大井君 (機械3年)



▲コツコツヤルのがモットー秋本君 (機械3年)

ところ。中でも機親会は、文科系や体育会系の諸クラブ顔負けに精力的な活動を行う集団として、学生のみならず、先生方からも目置かれています。

機親会が発足するきっかけとなったのは、5年前のエコラン競技への初参加です。エコラン、つまりエコノミーランとは、石油メーカーなどの主導により、オイルショック以降盛んに行われており、1ℓのガソリンでクルマがどれだけの距離を走ることができるかを競うもの。そして、この競技に参加したいと立ち上がったのが機械工学科の学生たち。同学科の杉山好弘教授にかけあったところ、先生の研究室の片隅を作業場として提供してくれることになり、これが機親会のスタートとなりました。当初のメンバーは4、5名ほどでしたが、エコラン以外の分野にも挑戦するうちに徐々に会員数が増え、現在は35名もの大所帯。全メンバーが集まると、作業場に入り切らないほどです。

ところ。中でも機親会は、文科系や体育会系の諸クラブ顔負けに精力的な活動を行う集団として、学生のみならず、先生方からも目置かれています。

機親会が発足するきっかけとなったのは、5年前のエコラン競技への初参加です。エコラン、つまりエコノミーランとは、石油メーカーなどの主導により、オイルショック以降盛んに行われており、1ℓのガソリンでクルマがどれだけの距離を走ることができるかを競うもの。そして、この競技に参加したいと立ち上がったのが機械工学科の学生たち。同学科の杉山好弘教授にかけあったところ、先生の研究室の片隅を作業場として提供してくれることになり、これが機親会のスタートとなりました。当初のメンバーは4、5名ほどでしたが、エコラン以外の分野にも挑戦するうちに徐々に会員数が増え、現在は35名もの大所帯。全メンバーが集まると、作業場に入り切らないほどです。



▲恥ずかしがり屋の大村さん (システム1年)





▲エコラン班



▲エコノムープ班



▲ソーラー班



▲ロボット班

## お金がかけられない分は、創意と工夫、さらにモノ作りにかける情熱でカバー

機親会の4部門の活動について、もう少し詳しく説明してみましょう。まず「エコラン班」についてですが、競技内容は前述した通り、『マイレージマラソン』と『ホンダエコノパワー燃費競技会』という二大会があり、エコラン班はどちらにも参加、自己記録を更新し続けています。とくに後者の大会では、昨年までの記録を大きく上回る698.5km/ℓ(大学・専門学校クラス151台中26位)をマーク。エコラン班



▲エコラン班にこの人あり省燃費ドライバー結城君

次に「エコノムープ班」ですが、こちらでは同一容量(ドライバーなら5分で使いきるほど)のバッテリーを搭載するクルマが、2時間で走れる距離を競う競技に取り組んでいます。大きな大会では『ワールドエコノムープ』があり、今年度は、55.42420kmという記録で



▲みんなをまとめる良きリーダー千原君

総合10位、オープンクラス8位を獲得。エコノムープ班班長であり、機親会会長でもある千原健史君(機械3年)のコメントを聞きましょう。「今年は、あのマサチューセッツ工科大学より上位を獲得! 武蔵工大ここにありといった感じでした(笑)」そして「ソーラー班」では、ソーラーパネルを用いて太陽エネルギーを電気エネルギーに変換して走るクルマを作成し、各大会に挑んでいます。今年度は『ワールドソーラーカーラリーin秋田』と『朝日ソーラーカーラリーin幕張』に参加。とくに後者では一周の目標タイムを設け、決められた周回数を走行するラリー部門で、ほぼ完璧なラップタイムを記録。特別賞を受賞しました。「企業が莫大な費用をかけて造るソーラーカーと比べたらウチのは



▲メカニック修行中、福田君(機械1年)

ショボく見えるけど、コストパフォーマンスからいけば負けない。100万円もしないマシンでここまで走るんだぞ、という部分ではかなり自慢できるはず」と語るのは、班長の羽切正人君(機械3年)です。

さて残るのは「ロボット班」



▲ガンガン走るドライバー羽切君

です。この班にとつての大きな大会とは「ロボット相撲」と「川崎ロボット競技大会」の二つ。両大会ともに決められた土俵の中でロボット同士を戦わせるものですが、前者のロボットが車輪で移動することに対して、後者は「足」で移動するという違いがあります。残念ながら、今年度の成績はどちらもいまひとつでしたが、「ボクらの作るロボットは着々と強くなっています。当面の目標としては決勝に残ること。きっと近い

ちに実現することでしょう」とロボット班班長の小西康貴君(機械3年)は力強く語ってくれました。



▲機親会の「いい人」小西君

このように機親会の活動内容は非常に多彩。実際、他大学を見渡してみても、エコランなど単独のジャンルだけに取り組む団体はあるそうですが、彼らのようにひとつの団体で、ここまで幅広いジャンルに挑戦している集団はないそうです。会長の千原健史君は次のように語ります。「モノづくりを楽しむ」というのがウチの理念。その理念どおりに活動が続けてきたら、いつのまにか、こんなに手広くなってしまったという感じです。どこかの班の大会が近づけば他の班の者も作業を協力するし、また、複数班に所属している会員も多いので、みんながみんな、年から年中バタバタしています。学業と両立させるのはたいへんですが、それでもなんとか頑張ってしまうのは、やっぱりみんな、モノ作りが好きだからでしょうね」彼らの共通の夢は、いつの日か、武蔵工大の看板を背負って立つような技術者集団となること。決して潤沢でない予算にも負けず、創意と工夫でマシンやロボットを作り上げ、各大会へ飽くなきチャレンジを繰り返している彼らのことですから、きっとその日は、そう遠くないことでしょう。



▲期待のホープ寺田君(システム1年)



# 自分たちの力で、横浜キャンパスのカラーを作っていきたい



顧問：中原 秀樹 教授  
会長：清水 恒実(環境情報学科2年)  
会員数：27名(内女子12名)

## 「環境」「情報」「国際」の3つの要素が 記念すべき第1回横浜祭のメインコンセプト

従来までの学問の垣根を越え、学際的な教育を行う学部として、環境情報学部が横浜・港北ニュータウンに誕生して早や2年。新設された横浜キャンパス内のハイテク環境の整備は完全に済み、「21世紀型のエコキャンパス」として各方面から脚光を浴びています。ただ、そこで学ぶ環境情報



▲横浜祭で燃えつきた宇都宮君(環境2年)

学部の学生たちの実態(?)や学内の雰囲気といった点については、2年生までしかいないせいか、いまだ認知度が低いのが現状。そういった意味では、今回初めて横浜キャンパスの学生たちの手によって行われた学園祭＝「横浜祭」の

意義は、非常に大きかったと言えるでしょう。

実は昨年も、横浜キャンパスで学園祭が行われましたが、名目は「武蔵工大体育会の35周年記念の特別企画」であり、企画・運営はほとんど世田谷キャンパスの学生たちが担当。環境情報学部の学生たちは模擬店や展示物等での参加に過ぎなかったのです。

そこで「今年こそ自分たちの力で学園祭を行いたい!」と立ち上がったのが、Y.F.A.のメンバーたちなのです。

ユニークなのはそのメンバーの募集方法です。環境情報学部の学生たちは学籍番号が各々の電子メールアドレスとなっており、コンピュータを使って大学側からの連絡事項や友人からのメッセージを受け取ることができます。そし



▲グリーン商品の御用命は黒瀬君(環境1年)

て昨年の春休み、新2年生となる学生たちのメールアドレス宛てに「Y.F.A.メンバー急募!」といった旨のメールが入ったのです。なお、メールを発信したのは、後に実行委員会の顧問となる中原秀樹先生でした。最初は集まりが悪かったそうですが、一年生が入学した時点で再募集をかけたところ、10名ほどの有志が集まりました。

その中から、会長を任されることになった清水恒実君(環境2年)は入会の動機を次のように語ります。「実は昨年度の学園祭にも、模擬店の出店という形で参加したんです。そのとき、世田谷の先輩たちに、「来年はキミたちだけで全部やらなきゃな」と言われたのが頭に残ってまして……。結局、まだ真っ白な状態の横浜キャンパスに色を染めていく



▲来年も頼りにしてます会長清水君

のは、自分たち横浜の学生の役目なんですよ。それで誰かがやらなきゃいけないことだったらボクがやろうという感じで入会しました。家と大学を往復するだけの学生生活より、よほど得るものが多いんじゃないかと感じましたし」

自分たちの力で学園祭を、と言っても、彼らにはまったくノウハウがないわけですから、やはりさまざまな部分で世田谷キャンパスの学生たちの協力を仰がなければなりません。そこで体育会やMI-TECH祭(＝世田谷キャンパスの学園祭名)実行委員会と定期的に連絡を取り合いながら、企画を煮詰めていく作業が始まりました。

ようやく横浜祭のアウトラインが固まったのは6月の下旬。いまだかつてない学園祭にしようという気持ちと、環境情報学部で学生たちが何を学んでいるのかを広く知ってもらいたいという気持ちを込め、「環境」「情報」「国際」という3つの分野を柱に構成することになりました。企画の「目玉」となるのは、「環境」分野では、環境負荷に配慮した商品





▲あいにくの雨で人出はひととつ...

▼パソコンを使っている疑似プリント倶楽部



▲ゴミ削減のため企画されたDRP

▼留学生を中心とした各国の展示



▲環境に配慮した車の展示



(グリーン商品)の展示、「情報」分野では、普段学生たちが学んでいるマルチメディア環境を来場者に体験してもらうこと、そして「国際」分野では、留学生たちを中心としたパネルディスカッションです。また、ゴミ削減のため、模擬店では使い捨て容器の代わりに再使用可能な容器を使い、容器を返却したお客様に対しては50円を返金するという企画(DRP)も行うことになりました。



▲若さあふれる行動派、野崎さん(環境1年)



▲運搬は僕に任せてドライバー・府川君



▲“総理大臣”と異名の高い隅田君

地域の住民の方々の関心を集めていたようです。もちろん、後夜祭で行われた「金谷ヒデユキ・ライブ」も、入場無料ということもあり、大盛況でした。

来場者数は延べ約800人、模擬店の出店などで参加した学生数が100人、ステージ関係のスタッフが80人、計1000人近くが参加したことになります。当初1500人以上は集まると見込んでいたそうですが、悪天候だったことを考えると、ますますの成功だったと言えるでしょう。

メンバーに横浜祭を振り返ってみた感想を聞きました。「最後のほうはドタバタ進行。もう少し早く準備に取り掛かり、各企画の細かい部分まで煮詰めておくべきでした」(府川敏治君・環境2年)。「スタッフが少なすぎたと思います。また、学園祭がたった1日というのは良くない。もう1日あればもっと参加者が伸びたはず」(隅田照久君・環境2年)。「来場者の少なさは天候もあるけど、広報不足も大きい。ポスターやチラシがギリギリになってできあがったなんてちょっと恥ずかしい」(佐藤宣友君・環境2年)。

反省のコメントばかりが続き、実行委員会の面々としては、どうやら大成功とまではいかなかったようです。しかし、「自分たちでやり遂げた」という達成感だけは誰もが感じている様子でした。

今回のY.F.A.は、あくまでも今年の学園祭のために集め

られたものですが、多くの方が来年もまた、Y.F.A.の一員として活動したいと考えているようです。彼らによって始まったばかりの横浜祭の歴史が今後どのように開花していくのか、大いに期待しましょう。



▲学園祭をいばんエンジョイしていた(?)佐藤君

### 準備不足と悪天候のダブルパンチ！ しかし企画の多彩さに参加者は大満足

10月24日(日)、横浜キャンパスの学生たちの手による初めての学園祭はついに行われました。後期に入ってからこの日まで、Y.F.A.のメンバーたちの日常は、実に多忙を窮めていたそう。それを見兼ねた友人たちが実行委員会に協力するというパターンで、最終的にメンバーは27人にまで増えていました。

当日はあいにくの雨、気温も10月にしては寒すぎるという最悪のコンディション。しかも横浜国体と重なったということもあり、参加者の足出しはいまひとつ芳しくありませんでした。地域の住民の方のために予定していた「ワープロ講習会」などは、午前と午後の2回行う予定でしたが、あまりに集まりが悪いので、急遽、午後の1回のみに変更になってしまいました。

それでも、企画によっては多くの参加者で賑わうところもあり、中でも台湾・ベトナムからの留学生たちが中心にな



▲骨の髄からエコロジスト小野君(環境1年)

って行った「国際ダンス」、飲食しながらインターネットを楽しめる「インターネットカフェ」、子供たちのために用意した「ミニ四駆大会」などが人気でした。また、グリーン商品の展示会場も、生活に密着した商品が多かっただけに、



# キャンパストピックス

CAMPUS TOPICS

## 横浜キャンパス

### わが国の大学で初のISO 14001 認証取得!

——環境教育のトップ・ランナーを目指して——

本学が平成9年4月に横浜・港北ニュータウンに新設した環境情報学部では、平成10年10月28日に新学部設置当初からの目標であった国際規格「環境マネジメント・システムISO 14001」の認証を取得した。わが国の大学での認証取得第1号である。

認証は日本環境認証機構(JACO)から取得、適用範囲は環境情報学部の置かれる「横浜キャンパス」の全域に及び、教員・事務職員・学生および構内に常駐する委託業者(食堂・売店等)全員が環境マネジメント・システムに参画する。

本学では、かねて工学部において「水素自動車」の開発など環境対応技術の成果を発表してきたが、21世紀の重要な社会的課題となる「環境」と「情報」をテーマに「持続的に発展できる社会」を構築できる有為な人材を育成するために「文系/社会科学系の環境情報学部」を新設した。この学部は、文系・理系の両面にわたる分野横断型の新しい学問スタイルを特色としている。新設した横浜キャンパスは設計段階で省エネルギー・省資源の施設・設備を大幅に取り入れたエコロジカル・キャンパスとして注目を集めている。氷蓄熱式ヒートポンプエアコン、ペアガラス(複層ガラス)、ハイサイド・ライト、ソーラーシステム、照明計画の工夫や庇(ひさし)・袖壁の設置など自然エネルギーの活用により推定30%の消費電力の節減を発定当初から実現している。また、雨水利用システムや廃材利用の外部床材の

導入など省資源にも力を入れた自然環境共生型のキャンパス。また専任教授陣もわが国の環境問題に関する強力陣容がそろっている。

わが国のISO 14001 認証取得は、平成10年8月末現在で1,174件(日本環境認証機構調べ)であるがその大多数(99%以上)は製造業であり、非製造業はごくわずか(1%未満)にすぎず、大学で取得したところは未だない。

環境情報学部のISO 14001 認証取得は、社会全般に地球規模での問題提議を喚起するうえで、重要な役割りを果たすことが期待される。また、この学部の環境マネジメントを効果的に実施するための体制として、「ISO学生委員会」が自発的に組織されている。教授陣の運営組織である4つの部会(環境教育部会、省エネルギー部会、省資源部会、環境管理部会)を、この学生委員会がサポートし、こうした活動を通して「環境マインド」に富んだ人材が育成され、卒業後その精神を社会全体に移転する効果も、「大学」というサイトの重要な機能であると考えている。

今回認証を取得した「環境マネジメント・システム」は、このような学部の特色を生かし、環境問題に関する

- ①公開講演会の計画・開催
- ②環境教育の普及・啓発
- ③省エネルギーや省資源に関する研究活動
- ④ISO学生委員会の運営による環境関連情報のインターネットを通じた発信

といった市民に対する積極的な教育・研究活動の推進を含み、これが大きな特色となっている。

もちろん、省エネルギー、省資源に対する潜在的な節減システムの更なる向上をも視野に捉えたキャンパス全体の「エネルギー(電力)の節減」や「ゴミの減量と再資源化」を目的とした活動にも教職員・学生等が一体となって取り組むプログラムが運用される。具体的には、

- ①平成12年(学部完成時)の推定電力使用量(2,167,000Kw/h)の8%を削減する。
- ②同上時までの推定一般廃棄物量(29.1t)の10%削減をはかる。

#### 〈氷蓄熱式ヒートポンプエアコン〉

水を1℃から0℃に下げると1の冷たさが蓄えられますが、この水を0℃の氷に変えたとさらに80もの冷たさを蓄えることができます。このキャンパスでは深夜の電力を使って蓄熱槽に水を蓄え、その冷たさを冷房運転に役立てています。



#### 〈ペアガラス〉

二重構造になったペアガラスやLow-Eガラス(特殊コーティング断熱ガラス)は、特に冬の室内環境の質を向上し、しかも暖房用の燃料使用量を減らすのに効果があります。



#### 〈ハイサイド・ライト〉

自然光をうまく利用して電灯照明のむだを減らし、通風をうまく行って空調のむだを減らします。



#### 〈ソーラーシステム〉

屋根に降り注ぐ太陽エネルギーは、給湯用のエネルギー源として理想的です。体育館の屋根の一部にソーラーパネルを設け、温水シャワーに太陽エネルギーを利用します。



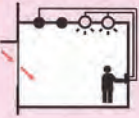
#### 〈庇(ひさし)／袖壁〉

庇や袖壁は1年を通して、自然の光を室内に適度に採り入れるのに大きな役割を果たします。庇や袖壁によって特に夏の室内環境の質が向上し、しかも冷房用の電力使用量が減らせます。



#### 〈照明計画の工夫〉

窓から得られる自然光をうまく利用するとともに、電灯照明のスイッチを系統化、センサーによる点滅を自動化するなどによって、室内環境の質は向上し、しかも電力使用量は減ります。



#### 〈雨水利用〉

雨水をできるだけ雨水槽に集め、キャンパス内の樹木への散水に利用します。また一部を体育館の屋根に供給できるようにしてあります。夏の暑い日に体育館を使う場合に散水すると、焼けた屋根の温度が下がり、体育館の内部は過ごしやすくなります。





③分別ごみ箱の設置(現在7種類に分別:1.燃やせるゴミ2.燃やせないゴミ(プラスチック等)3.ペットボトル4.スチール缶5.アルミ缶6.ビン7.タバコ)により、リサイクル可能なゴミの再資源化100%達成。

④環境負荷の少ないグリーン商品の積極的な購入などである。環境情報学部では、環境マネジメント・システムの意義とプログラムを積極的に社会に情報公開し、広く地球的視野に立った環境の保全と改善に努め、21世紀の社会の持続的な発展に貢献することを強く望むとともに、他大学の環境ISO取得に対して積極的に支援していきたいと考えている。

## 世田谷キャンパス

### オープンカフェ誕生!



オープンカフェ設計・施工総指揮  
手塚貴晴(建築学科 講師)

ある日突然建築学科2年生が研究室に遊びに来るなり開口一番「先生、喫茶店を作られるそうで。」との一言。学生の差し出した学生新聞には、でかでかと極秘の筈の模型が登場している。慌てて学生課の鈴木課長に問い合わせると、何ともボランティア学生のリストまで

出来上がっている。どうやら本当に学生と私が工事をするらしい。さらに横に居合わせた海老原学生部長は、にこやかに微笑みつつ「じゃよろしく頼むよ」とのお言葉を残していそいそと消えてしまった。かくして時勢の濁流に翻弄されつつ、超突貫超廉価版工事「カフェムサシ」はスタートすることになった。

結果は上々。なんとカバリの街角にも負けないスポットに仕上がったと思っている。何しろ予算がない。木材は某建築会社の倉庫を占領していたやっかいものの廃材を使う事になった。デッキのこげ茶色は、なかなか厚重な趣である。下水処理場の最終工程を長年攪拌していた水車の部材だけのことはあって、そんじょそらのデパートの店頭に並ぶ製品とは違う。ちなみに下水処理場の方によれば衛生上は全く問題ないそうなのでご心配無く。防腐剤が少々匂うが、最初の内だけ。いずれ日光と雨が時とともに解決してくれる筈である。なにしろこれから日本の将来を担う輝ける武蔵工業大学生の施設である。安いなりにもセンスが大切。パラソルは台風にも耐える本格派。チーク材のテーブルと椅子はオーストラリアから輸入した。今回の木デッキは学生の手で施工された。釘の打方などバラバラであるが、そんなことはこの際問題ではない。学生は大工さんの指導を受けながらも自分で本物を作り上げた満足感一杯のようである。メダシメダシ。



## 課外活動短評

【アイスホッケー部】第71回日本学生氷上競技選手権大会アイスホッケー部門関東地区予選において、成蹊大に3:2で勝利し、インカレ出場権を獲得した。

【ラグビー部】全国地区対抗ラグビー大会関東1区リーグ戦において、全勝優勝を果たし、4年連続全国地区対抗大会出場を成し遂げた。

【準硬式野球部】新関東連盟春季リーグ戦2部において優勝を果たし、入れ替え戦の結果、1部昇格を成し遂げた。また、森俊介君(経3)が最優秀選手に、川久保敦雄君(電4)が最優秀投手に選ばれた。

【ハンドボール部】関東学生ハンドボール春季リーグ戦3部において、優勝を果たし、東日本インカレ出場を獲得した。

【剣道部】第31回関東理工工学系新人戦大会において、団体準優勝を果たした。また、瀧澤俊一君(経3)が個人準優勝を果たした。

【陸上競技部】岩崎秀彦君(経2)が第77回関東学生陸上競技対抗選手権大会において、走り高飛び1m95を記録し7位入賞を果たした。

【スカイスポーツ同好会】'98 NASA Student Cupにおいて、団体準優勝を果たした。また、内藤崇裕君(機4)が個人準優勝(ファーストクラス)を果たした。

【ラジオクラブ】第10回 ALL JALコンテスト電信電話部門シングルオペレータ50MHzにおいて、優勝を果たした。

【機観会】1998 World Econo Moveにおいて、総合78台中10位(マサチューセッツ工科大学などの有力チームをおさえ、初のベスト10入り)、オープンクラス54台中8位、参加6大学8チーム中2位の成績を収めた。また、自ら「手作りEVLレース98(略称EVR98)」という高校生を対象とした自動車レースを主催・開催した。

緊急奨学金…平成10年度奨学生として下記の2名が採用され、授業料の半額が貸与されました。

羽根田幹曜(システム2年) 中村幸紘(建築3年)

## 事務局 便り

### ～横浜キャンパスに相談窓口開設～

横浜キャンパスが開設されてはや3年目。

MI-TECH横浜祭など世田谷キャンパス同様、学生達による活発な課外活動が行われ、ようやく「大学のキャンパス」らしくなってきました。

今年度で創設10周年を迎えた後援会では、より学生生活に密着した後援活動を行うため、新たに横浜キャンパスにも、ご父母の相談に応じる窓口を用意いたしました。

2キャンパス体制ですます充実した支援を行ってまいりますので、今後ともご父母の皆様方のあたたかいご協力、ご支援をお願い致します。

### ◎お問い合わせ先◎

【世田谷キャンパス】03-3703-3111内線2180 小山学生課長  
【横浜キャンパス】045-910-2520ダイヤルイン 鈴木学務課長



# 平成10年度「大学と父母との連絡会」について

平成10年度の「大学と父母との連絡会」は7月12日(日)沖縄の那覇市を皮切りに、9月26日(土)の東京・横浜地区までの間、全国28会場において開催されました。各会場の出席状況は下記のとおりで、各地において評議員の方々には運営等にご協力いただきました。

## ■平成10年度「大学と父母との連絡会」出席状況

開催地	開催日	会場名	対象県	対象数	出席者数	出席率	平成9年度
札幌	9月5日(土)	札幌グランドホテル	北海道	59人	20人	28.8%	12.3%
函館	9月6日(日)	函館ハーバービューホテル					
秋田	9月4日(金)	秋田ビューホテル	青森	11	0	0	27.3
			岩手	18	0	0	30.0
			秋田	19	11	42.1	18.2
仙台	9月5日(土)	ホテルサンルート仙台	宮城	38	21	52.6	48.7
			山形	18	0	0	35.3
郡山	9月6日(日)	チサンホテル郡山	福島	65	19	26.2	20.7
水戸	9月12日(土)	ホテルシーズン	茨城	142	37	17.6	24.4
宇都宮	9月13日(日)	宇都宮ステーションホテル	栃木	88	26	21.6	28.2
東京 横浜	9月26日(土)	武蔵工大 世田谷キャンパス	東京	1202	188	12.1	13.9
	9月26日(土)	武蔵工大 横浜キャンパス	神奈川	1574	263	12.5	14.6
			千葉	304	54	12.2	12.9
			埼玉	342	77	14.3	12.2
高崎	9月6日(日)	ホテルメトロポリタン高崎	群馬	72	16	19.4	21.4
新潟	9月5日(土)	ホテルディアモント新潟	新潟	52	15	23.1	25.5
甲府	9月12日(土)	古名屋ホテル	山梨	70	31	32.9	35.7
長野	9月13日(日)	ホテルナガノアベニュー	長野	126	30	19.0	30.9
富山	9月5日(土)	第一イン富山	富山	40	13	30.0	42.1
金沢	9月6日(日)	金沢東急ホテル	石川	34	14	32.4	44.7
			福井	12	7	33.3	20.0
静岡	8月29日(土)	小田急センチュリー静岡	静岡	235	101	34.5	36.1
浜松	8月30日(日)	浜松名鉄ホテル					
名古屋	9月5日(土)	ホテルアソシア名古屋ターミナル	愛知	58	20	25.9	35.8
			岐阜	19	8	26.3	23.8
			三重	25	7	20.0	10.7
			滋賀	11	0	0	12.5
			京都	11	0	0	10.0
大阪	9月6日(日)	大阪第一ホテル	大阪	16	10	50.0	21.4
			奈良	0	0	0	0
			和歌山	6	1	16.7	0
			兵庫	13	5	23.1	7.1
岡山	8月29日(土)	ホテルニューオカヤマ	岡山	24	5	20.8	39.1
			鳥取	6	1	16.7	40.0
広島	8月30日(日)	広島ガーデンパレス	広島	45	17	33.3	32.6
			島根	11	4	18.2	20.0
小郡	8月29日(土)	山口グランドホテル	山口	14	8	42.9	35.7
高松	8月29日(土)	高松東急イン	香川	12	3	25.0	53.3
			徳島	17	4	23.5	25.0
			愛媛	19	3	10.5	18.8
高知	8月30日(日)	ホテルサンルート高知	高知	27	7	25.9	37.5
福岡	8月30日(日)	ホテルステーションプラザ	福岡	56	31	41.1	43.8
			佐賀	9	1	11.1	22.2
			長崎	5	1	20.0	20.0
大分	8月29日(土)	大分第一ホテル	大分	19	9	36.8	17.4
			熊本	7	4	28.6	50.0
宮崎	8月30日(日)	宮崎観光ホテル	宮崎	23	17	52.2	9.1
			鹿児島	14	3	21.4	31.3
那覇	7月12日(日)	ホテルニューおきなわ	沖縄	24	11	33.3	56.0
			外国等	88	1	1.1	8.0
			合 計	5100	1124	16.7	19.0